

令和5年度 家庭科

教科	家庭	科目	家庭総合	単位数	2単位	年次	1年次
使用教科書	家庭総合 自立・共生・創造 (東京書籍)						
副教材等	家庭科 55 デジタル+ (教育図書)						

1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

- ・人の一生と家族・家庭及び福祉、住生活、消費生活・環境について幅広く学習します。将来の自立に向け知識を習得し社会や生活への理解と考えを深めましょう。
- ・講義では教科書と資料集を使いプリント学習を行います。板書を写すだけでなく授業のポイントや気付いたことを記入することで評価が高くなります。
- ・体験学習やグループワークを取り入れ、より実践的な態度を養います。周りの人と協働しながら自分を表現し、他者の意見を聞くことで視野を広げる機会を設けます。

2 学習の到達目標

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働しよりよい社会の構築に向けて男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することをめざす。

- (1) 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な科学的な理解を図るとともに、それらに係る技能を体験的・総合的に身に付ける。
- (2) 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなど生涯を見通して課題を解決する力を養う。
- (3) 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。

3 評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、生活を主体的に営むために必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。
上に示す観点に基づいて、学習のまとめごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4 学習の活動

※令和4年度以降入学生用

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	第1章 生涯を見通す	1 人生を展望する 2 目標を持って生きる	a:生涯発達の視点からライフステージの特徴と課題を理解することができる。 B:少子高齢社会、男女共同参画社会などの社会状況を考えながら、自分の生活や将来について考えを深めることができる。 c:現在の自分のこと、将来の生活設計を考えることについて、意欲を持って取り組もうとしている。	定期テスト 提出物	定期テスト 提出物	振り返り
	第2章 人生をつくる	1 人生をつくる 2 家族・家庭を見つめる 3 これからの家庭生活と社会	a:家族・家庭の機能とそれを取り巻く社会環境の変化や課題について理解することができる。 b:男女が協力して、家族の一員としての役割を果たし家庭を築くことの重要性について問題を見だし、課題を解決する力を身に付けることができる。 c:現在、将来の生活を工夫・創造し、実践しようとしている。	定期テスト 提出物	定期テスト 提出物	観察
2学期	第3章 子どもと共に育つ	1 命を育む 2 子どもの育つ力を知る 3 子どもと関わる 4 子どもとの触れ合いから学ぶ 5 これからの保育環境	a:乳幼児の心身の発達や親の役割と保育環境について理解することができる。 b:現在の子どもの取り巻く状況や子育ての環境について課題を見つけ、解決への考えをまとめることができる。 c:子どものための絵本製作などの実践活動に積極的に参加し、子どもの発達の様子や生活に興味・関心を持つようとしている。	定期テスト 提出物	定期テスト 提出物	作品の制作 振り返り

※令和4年度以降入学生用

	第9章 経済生活を営む	1 情報の収集・比較と意思決定 2 購入・支払いのルールと方法 3 消費者の権利と責任 4 生涯の経済生活を見通す 5 家計をマネジメントする 6 これからの経済生活	a: 家庭経済・国民経済などのしくみや消費行動における意思決定の過程とその重要性について理解することができる。契約についての知識を身に付けることができる。 b: 消費者としての自覚を持ち、消費者の権利と責任を考えることができる。 c: 生涯に起こりそうなリスクを想定しながら、経済計画について具体的に考えようとしている。	定期テスト 提出物	定期テスト 提出物	振り返り
3学期	第4章 超高齢社会を共に生きる	1 超高齢・大衆長寿社会の到来 2 高齢期の心身の特徴 3 高齢者の自立を支える 4 これからの超高齢社会	a: 高齢者の心身の特徴や社会の課題について理解することができる。 b: 高齢社会の現状や高齢者の生活を知ることにより高齢者の自立した生活とは何か、自分の考えをまとめることができる。 c: 体験実習においては、積極的に参加し、高齢者の状況を把握しようとしている。	定期テスト 提出物	定期テスト 提出物	振り返り
	第5章 共に生き、共に支える	1 私たちの生活と福祉 2 社会保障の考え方 3 共に生きる	a: 社会福祉の意味、現在の社会福祉の状況、社会保障制度のしくみについて理解できる。 b: 支えあう社会とは何かを主体的に考え社会福祉についての考えをまとめることができる。 c: 社会福祉・社会保障のしくみや地域での支え合いのしくみについて意欲的に理解しようとしている。	定期テスト 提出物	定期テスト 提出物	振り返り
	第8章 住生活をつくる	1 住生活の変遷と住居の機能 2 安全で快適な住生活の計画 3 住生活の文化と知恵 4 これからの住生活	a: 住居の機能や気候・風土とのかかわりに関心を持ち、各地の気候・風土に適した住まいを理解している。 b: 快適な住空間や安全な住まいについて判断することができる。 c: 住まいの文化や機能、住空間の計画や住環境について関心をもち、快適な住まいづくり、よりよい住生活の創造にむけて意欲的に取り組もうとする。	定期テスト 提出物	定期テスト 提出物	振り返り

※ 表中の観点について a:知識・技能 b:思考・判断・表現 c:主体的に学習に取り組む態度

学校番号	404
------	-----

令和5年度 家庭科

教科	家庭	科目	家庭総合	単位数	2単位	年次	2年次
使用教科書	家庭総合 自立・共生・創造 (東京書籍)						
副教材等	家庭科 55 資料集 (教育図書)						

1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

<ul style="list-style-type: none"> ・講義形式と実習の両方の授業を行います。調理実習では、日常の食生活のなかで心がけるポイントを知り、それを実践できる力を養います。被服実習では、布の扱い方・ミシンの扱いや刺し子の技法について学び作品を製作します。 ・講義では教科書と資料集を使いプリント学習を行います。板書を写すだけでなく、授業のポイントや気付いたことを記入することで評価が高くなります。 ・体験学習やグループワークを取り入れ、より実践的な態度を養います。周りの人と協働しながら自分を表現し、他者の意見を聞くことで視野を広げる機会を設けます。

2 学習の到達目標

衣生活・食生活などに関する知識と技術を総合的に習得させ、家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。
--

3 評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	人の一生と衣食などに関する基礎的・基本的な知識・技能を身に付けている。	人の一生と衣食などについて生活の充実向上を図るための課題を見だし、その解決をめざして思考を深め、適切に判断し、工夫し創造する能力を身に付けている。	人の一生と衣食などについて関心をもち、その充実向上をめざした主体的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。
上に示す観点に基づいて、学習のまとめりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

※令和4年度以降入学生用

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	第7章	1 被服の役割を考える 2 被服を入手する	a:衣生活に関心を持ち,人間と被服,気候と被服の関わりを考えようとしている。 b:各ライフステージに適した衣服の役割,適切な着装,衣生活の管理について考えを深めている。 c:衣生活に関心を持ち,正しい被服の着装を理解した上で,生活に活かそうとする姿勢がみられる。	定期テスト 提出物	定期テスト 提出物	振り返り
		4 被服をつくる	a:衣服製作実習を通して,材料の選択,基礎的なミシン縫い・手縫いなどの縫製技術を身につけ,エプロン・巾着袋・三角巾の製作ができる。 b:完成した作品に刺し子を施すことにより,自分らしさを表現することができる。 c:被服実習においては,制作活動に意欲的に,とりくもうとしている。	定期テスト 提出物 被服実習	定期テスト 提出物 被服実習	観察 振り返り
		3 被服を管理する	a:手持ちの被服を長期にわたり着用することができるよう,管理や手入れの工夫について理解する。 b:環境に配慮した衣生活について考え,実践できる力を身につけるために,被服の洗濯や保管方法を科学的に理解する。 c:衣服の表示にはどのような種類があるのか,なぜついているのかを理解し,購入から洗濯などの管理に役立てようとする。	定期テスト 提出物	定期テスト 提出物	振り返り
		5 衣生活の文化と知恵 6 これからの衣生活	a:現代に受け継がれる日本の衣文化の工夫を受け継ぐために,日本の衣生活の変遷や日本の衣文化に込められる知恵や技術について知り,日本の民族衣装としての和服や世界の民族衣装について理解する。 b:現在の衣生活をとりまく状況	定期テスト 提出物	定期テスト 提出物	振り返り

※令和4年度以降入学生用

			<p>について、自分の衣生活を振り返りながら、課題を導き出すことができる。</p> <p>c: 次世代に引き継げる衣生活の在り方を考えるために、資源の消費の視点で自分自身の衣生活を振り返ることができる。</p>			
2 学期	第 6 章	<p>1 食生活の課題について考える</p> <p>2 食事と栄養・食品</p> <p>3 食品の選択と安全</p>	<p>a: よりよい食習慣を身につけ、生涯を健康に過ごすために、食生活の課題や食事の意義、食生活を取り巻く環境の変化などを理解する。</p> <p>b: 食品成分表を活用して栄養計算し、食生活の問題点を考えようとしている。食品表示の読み方を理解し、情報を正確に把握する。食品を見分け、よりよい選択ができるようにする。</p> <p>c: 自分自身の食生活について関心をもつとともに、自分や家族の食生活について意欲的に改善・向上に努めようとする。</p>	定期テスト 提出物	定期テスト 提出物	振り返り
		<p>4 生涯の健康を見通した食事計画</p>	<p>a: 自分や家族が健康に過ごす食生活に役立てるために、栄養素の種類と機能や食品の栄養的特質や調理性について、科学的な理解を深める。</p> <p>b: 食事摂取基準や食品群別摂取量の目安について、家族や自分の食生活と関連させて考え、食生活の課題を調査してまとめたり、発表している。</p> <p>c: 普段の食事に興味を持ち、家族や自分自身にとって栄養バランスのよい献立について考えることができる。</p>	定期テスト 提出物	定期テスト 提出物	振り返り
		<p>5 調理の基礎</p>	<p>a: 食生活の自立に必要な調理の知識と技術を身につけるために、調理や加工によりおいしさに変化することを科学的に捉える。配膳やマナーに関心を持つ。”</p> <p>b: 栄養・食品・調理に関する基礎的な知識を生かしながら、家族の献立を作成することができる。</p>	定期テスト 提出物 調理実習	定期テスト 提出物 調理実習	観察 振り返り

※令和4年度以降入学生用

			c: 調理実習においては、積極的に参加し、とりくもうとしている。			
3 学期	第 6 章	6 食生活の文化と知恵 7 これからの食生活	a: 郷土食や行事食などのよいところを継承・創造するために、日本の食文化の特徴を確認する。世界の食文化に関心を持ち、私たちの食生活への影響について理解する。 b: 自分や家族の食生活を持続可能にすることができるようになるために、安全・環境・健康など食生活に関わる情報を適切に判断し、広い視野で食生活について考える。 c: 食生活全般に関心を持ち、これからの食生活や食を取り巻く環境の改善に役立てようとする。	定期テ スト 提出物	定期テ スト 提出物	振り返り

※ 表中の観点について a:知識・技能 b:思考・判断・表現 c:主体的に学習に取り組む態度

令和5年度

家庭科

教科	家庭	科目	家庭総合	単位数	2単位	年次	3年次
使用教科書	「家庭総合 自立・共生・創造」(東京書籍出版)						
副教材等	「家庭科55資料集」(教育図書)						

1. 担当者からのメッセージ(学習方法等)

インスタントシニア体験や絵本製作を通して、生活の充実向上に向けた実践的な態度を育てるきっかけとし、ICT機器を利用した視覚に訴える授業を展開します。

2. 学習の到達目標

人の一生と家族・家庭、子どもや高齢者とのかかわりと福祉、消費生活、住生活などに関する知識と技術を総合的に習得させ、家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。

3. 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a: 関心・意欲・態度	b: 思考・判断・表現	c: 技能	d: 知識・理解
観 点 の 趣 旨	人の一生と家族・家庭及び福祉、住居、消費生活などについて関心をもち、その充実向上をめざした主体的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。	人の一生と家族・家庭及び福祉、住居、消費生活などについて生活の充実向上を図るための課題を見だし、その解決をめざして思考を深め、適切に判断し、工夫し創造する能力を身に付けている。	人の一生と家族・家庭及び福祉、住居、消費生活などに関する基礎的・基本的な技術を身に付けている。	人の一生と家族・家庭及び福祉、住居、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。
評 価 方 法	学習状況の観察 ノートやワークシート 実習記録 レポート 自己評価	学習状況の観察 ノートやワークシート 実習記録 レポート、発表 定期考査の結果 自己評価・相互評価	学習状況の観察 ノートやワークシート 製作品 レポート、発表 定期考査の結果 自己評価・相互評価	学習状況の観察 ノートやワークシート 実習記録 レポート、発表 定期考査の結果

上に示す観点に基づいて、学習のまとめごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4. 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1	自分らしい人生をつくる	<p>○各ライフステージの特徴と課題を理解する。</p> <p>○生涯発達の観点から今の自分を客観的に見つめ、生活課題に対応した意思決定の大切さを理解する。</p> <p>○男女が相互に協力して家庭を築くことの重要性を理解し、家庭生活の在り方について考える。</p> <p>○家族・家庭に関する基礎的な法律を知り、現在の動きを把握する。</p> <p>○家事労働・職業労働について知り、ワーク・ライフ・バランスについて考える。</p>	○	○	○	○	<p>a: 生涯発達の考え方に立ち、各ライフステージの特徴と課題に関心を持ち、青年期の課題について具体的に考えようとしている。</p> <p>・固定的な性別役割分業意識を見直し、多様な生き方を認め、積極的に家族・家庭と社会との関わりを考えようとしている。</p> <p>b: 自分を見つめ、肯定的な自己概念を持ち、自分の人生や進路について考えを深め、具体的にまとめている。</p> <p>・家庭生活を支える法律や社会制度、ボランティアの在り方について考え、まとめたり、発表したりしている。</p> <p>・男女共同参画の面から、各自が担う家庭での役割と自立について考え、まとめたり、発表したりしている。</p> <p>c: 家族や家庭生活の在り方などについて検討するために、新聞や書籍などから必要な資料を収集したり、調査したりすることができる。</p> <p>d: 生涯発達の視点から各ライフステージの特徴と課題について理解している。</p> <p>・青年期の課題や現代家族の特徴、家庭機能の変化、家庭生活と社会との関わりについて理解している。</p> <p>・自分らしく生きるために目標を持ち、生活課題に対応した意思決定を自分で行うことの大切さや考え方を理解している。</p>	授業観察 ワークシート 定期考査 自己評価 相互評価
1	高齢社会を生きる	<p>○高齢社会の現状と課題を理解する。</p> <p>○高齢期の心身の変化や特徴と、個人差が大きいことを理解する。</p> <p>○高齢者を支援する方法を具体的に学ぶ。</p> <p>○身近な高齢者との触れ合いの機会を探す。</p> <p>○高齢者に関する福祉について学び、高齢者を支える制度と課題を考える。</p>	○	○	○	○	<p>a: 高齢社会の現状と課題、高齢者の心身の特徴や生活などについて関心を持ち、高齢者を肯定的にとらえ、高齢期の生活について考えようとしている。</p> <p>b: 高齢者や高齢者を取り巻く社会について、具体的に課題を見出し、その解決を目指して思考を深め、まとめたり、発表したりしている。</p> <p>c: 体験的実習を通して、高齢者と適切に関わることができる。</p> <p>・高齢者の日常生活に必要な基礎的介助ができる。</p> <p>・地域の高齢者福祉サービスについて情報を収集したり、調査したりすることができる。</p> <p>d: 高齢社会の現状と課題、高齢者の心身の特徴や生活について理解している。</p> <p>・体験的実習を通してコミュニケーションを図り、高齢者の意思を尊重し、思いやりをもって接することの大切さを理解している。</p> <p>・高齢者の尊厳を保ち、残存能力を生かした自立生活支援の必要性を認識している。</p>	授業観察 ワークシート 定期考査 自己評価 相互評価

2	子どもと共に育つ	<p>○出産前後の健康管理と子どもの発達の様子および発達段階を知る。</p> <p>○人生の初期における親・家族や周囲の人々の関わりの大切さを理解する。</p> <p>○遊び、基本的生活習慣の形成、食事、健康管理について知る。</p> <p>○子どもとの触れ合いを通して、愛着の形成と親としての成長を理解する。</p> <p>○子どもを取りまく社会変化の現状について理解し、考える。</p> <p>○児童福祉の理念を理解し、子育て支援の在り方について考える。</p>	○	○	○	○	<p>a: 母体の健康と子どもの誕生、子どもの心身の発達について関心を持ち、家族の果たす役割を考えようとしている。</p> <p>・子どもとの触れ合いを通して、発達や生活に関心を持ち、保育の重要性や社会の果たす役割を考えようとしている。</p> <p>・子どもを取り巻く環境や子育てにおける課題に関心を持ち、課題解決に向けて考えようとしている。</p> <p>b: 児童虐待や育児不安の事例研究を通して、原因および解決について考えを深めようとしている。</p> <p>・子どもを取り巻く環境の変化と子どもを生き育てることの意義、社会・地域・親の果たす役割について考え、課題を見出し、まとめたり、発表したりしている。</p> <p>・子どもと触れ合う学習活動について、学習目標、実習中の判断、学習後の振り返りなど、成果をレポートにまとめたり、発表したりしている。</p> <p>c: 子どもの生活や子どもを取り巻く環境、子育てにおける課題などについて、情報を収集したり、調査することができる。</p> <p>d: 生命の尊さ、子育ての意義の重要性について理解している。</p> <p>・妊娠や出産に関わる知識を身につけている。</p> <p>・子どもの心身の発達や生活と環境との関わりについて、家族および地域や社会の果たす役割を認識するために必要な知識を身につけている。</p> <p>・社会全体で子育てを支援する必要性を認識し、子どもの権利と福祉について理解している。</p>	<p>授業観察 ワークシート 定期考査 自己評価 相互評価</p>
3	住生活をつくる	<p>○住居の機能を考える。</p> <p>○平面図の基礎知識を習得し、間取りや動線について理解する。</p> <p>○ライフステージに合った住居を考える。</p> <p>○室内外の環境に着目し、安全性・快適性等を考慮する必要性を理解する。</p> <p>○バリアフリーの考え方を理解する。</p> <p>○気候風土に応じた住居や住まい方の工夫、住様式があることを理解する。</p> <p>○住環境における地域社会とのつながりの重要性を理解し、持続可能な住生活とは何か考える。</p>	○	○	○	○	<p>a: 生涯を見通して、住居の機能や住空間の計画などについて関心を持ち、よりよい住生活について考えようとしている。</p> <p>・安全で快適な住まい方や住環境について考えようとしている。</p> <p>・先人の知恵を生かした快適な住生活や住まい方について考えようとしている。</p> <p>b: ライフスタイルや価値観に応じた、生命と健康を守るための暮らしの在り方について考え、工夫している。</p> <p>・家庭内事故や防災など、安全な住環境の課題について考えを深め、まとめたり、発表したりしている。</p> <p>・地球環境に配慮した快適な住環境や、自然環境や社会環境と調和した住生活について考え、まとめたり、発表したりしている。</p> <p>c: よりよい居住環境を整備するために必要な平面図を読み取ることができる。</p> <p>・家族構成やライフステージ、生活価値観に応じた住空間の計画ができる。</p> <p>・健康や安全に配慮した室内整備や住環境について情報を収集・整理し、検討することができる。</p> <p>d: 住居の機能、住空間の計画、住環境など、安全で快適な住まいについて科学的に理解している。</p> <p>・安全と環境に配慮した住環境や現代の住生活の課題を認識し、その知識を身につけている。</p> <p>・住居と気候・風土・生活の関わり、住宅形態や住宅政策について理解している。</p>	<p>授業観察 ワークシート 定期考査 自己評価 相互評価</p>

※ 表中の観点について a: 関心・意欲・態度 b: 思考・判断・表現
c: 技能 d: 知識・理解

※ 年間指導計画(例)作成上の留意点

・原則として一つの単元(題材)で全ての観点について評価することとなるが、学習内容(小単元)の各項目において特に重点的に評価を行う観点(もしくは重み付けを行う観点)について○を付けている。

令和5年度 家庭科

教科	家庭	科目	フードデザイン	単位数	2単位	年次	3年次
使用教科書	「フードデザインcooking&arrangement」(教育図書出版)						
副教材等	「フードデザインワークノート」(教育図書出版)						

1. 担当者からのメッセージ(学習方法等)

- 食生活に関心を持ち、積極的に取り組みましょう
- ・実践的・体験的な学習を通して、科学的な理解に基づいた確かな技術を身に付けます。
 - ・学んだことを自分の生活の問題として捉え、よりよい生活をめざします。

2. 学習の到達目標

食文化や食品衛生、調理、栄養などの食に関する知識と技術全般を習得させ、食生活の充実・向上を図る能力と態度を育てる。

3. 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a: 関心・意欲・態度	b: 思考・判断・表現	c: 技能	d: 知識・理解
観 点 の 趣 旨	食生活について関心を持ち、その充実向上をめざして主体的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。	食生活の充実向上を図るための課題を見いだしてその解決をめざして思考を深め、適切に判断し、工夫し創造する能力を身に付けている。	食生活に関する基礎的・基本的な技術を身に付けている。	食生活に関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。
評 価 方 法	学習状況の観察 ノートやワークの記述 調理計画、製作計画 実習記録 レポート、発表 自己評価	学習状況の観察 ノートやワークの記述 調理計画、製作計画 実習記録 レポート、発表 自己評価	学習状況の観察 ノートやワークの記述 調理計画、製作計画 実習記録 レポート、発表 自己評価 実技テスト	学習状況の観察 ノートやワークの記述 調理計画、製作計画 実習記録 レポート、発表 自己評価 定期考査の結果

上に示す観点に基づいて、学習のまとめごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4. 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1	食生活の変化と現状	食品とエネルギー・栄養素の摂取量	○	○	○	○	<p>a: わが国の食生活は、戦後、大きく変化したことや、それに伴う影響に関心をもっている。</p> <p>b: 自分の食生活の問題点を分析し、課題を見つけることができる。</p> <p>c: 現代の食生活がかかえる問題点を自分の問題としてとらえ、改善の方法を具体的に考えることができる。</p> <p>d: わが国の食生活が、戦後大きく変化したことにより、栄養素等摂取量が変わり、それによってさまざまな影響を生じたことを理解している。</p>	プリントレポート 実習
1	健康に必要な栄養素	炭水化物 脂質 たんぱく質 ビタミン 無機質、水、その他	○	○	○	○	<p>a: 五大栄養素などの機能と代謝について関心を持ち、それらの栄養素を含む食品を効率的に摂取しようとしている。</p> <p>b: 各栄養素の種類と働きを理解し、健康を維持するためにはどのような食生活を送ったらよいのか判断することができる。</p> <p>c: 各栄養素の特徴とはたらき、日本人の食事摂取基準、ライフステージごとの栄養摂取の特徴などを念頭におきながら、普段の食事の計画に生かすことができる。</p> <p>d: 五大栄養素などの機能と代謝について理解している。</p>	プリントレポート 実習
1	調理の基本	調理の目的 食べ物のおいしさ 調理操作 食品の調理性	○	○	○	○	<p>a: 調理の目的について理解しようとしている。</p> <p>b: 調理の目的に合わせて適切な調理器具、調理方法を選択することができる。</p> <p>c: 適切な調理器具、調理方法について理解し、調理に生かすことができる。</p> <p>d: 調理の目的について理解している。</p>	プリントレポート 実習
2	調理実習	日常食・和風献立 日常食・洋風献立 日常食・中国料理献立	○	○	○	○	<p>a: 各料理について、基本的な特徴や献立作成に興味をもっている。</p> <p>b: 各料理について、基本的な献立作成に興味をもっている。</p> <p>c: これまでの学習内容を生かして、効率的に調理を行うことができる。</p> <p>d: 各料理について、基本的な献立作成、調理をすることができる。</p>	プリントレポート 実習

3	様式別の献立と調理・食卓作法	各様式の献立構成 食卓構成 作法	○	○	○	○	a:各様式別の献立構成、食卓構成、作法について興味をもっている。 b:様式に合わせた食事のマナーや、食べる人に配慮したサービスを判断できる。 c:食事の目的に合わせたテーブルコーディネートができる。 d:各様式別の献立構成、食卓構成、作法について理解している。	レポート 小テスト
---	----------------	------------------------	---	---	---	---	---	--------------

※ 表中の観点について a:関心・意欲・態度 b:思考・判断・表現
 c:技能 d:知識・理解

※ 年間指導計画(例)作成上の留意点

・原則として一つの単元(題材)で全ての観点について評価することとなるが、学習内容(小単元)の各項目において特に重点的に評価を行う観点(もしくは重み付けを行う観点)について○を付けている。